

モデル農園で災害に強い作物の栽培方法を習得

カロリーオフセットではフィリピンのレイテ島のDulag町とJulita町で農業支援を実施しています。ここは、2013年の台風Haiyanによって、甚大な被害を受けました。特に農業に関しては、栽培中の稲が全滅、約95%の椰子の木が被災しました。国際NGOや民間組織などの支援が提供されているものの、いまだに農業投入物や稲作資金不足に悩まされています。

そこで、カロリーオフセットでは、災害に強い作物の栽培方法を提供するため、街の中心地にモデル農園を設けました。農家100名を対象にセミナーを開催、有機肥料の作り方や害虫への対処に関する知識を習得してもらい、持続可能な農業技術の習得を目指しています。また、セミナーの参加農家の半数は女性とすることで、女性の社会進出も目指しています。さらに、将来の農業指導者候補25人を選抜して、11日間の特別講習を実施、持続可能な農業技術を地域に浸透させることを目指しています。

42ヶ所

に農園ができました
(2015年12月時点)

トレーニングの様子



米とココナッツに依存していた農家に、根菜類や野菜、ハーブなど、災害に強く、短期間で育つ作物の栽培を提案しました

今ある資源を活用する有機農業



もみ殻くん炭の使用

「もみ殻くん炭」は、米のもみ殻を燃やして炭化し、土壤改良材として使う農業技術です。小さい穴がたくさんあいているため、土壌の通気性をよくし、微生物の棲み家ともなります。微生物は有機物質を分解し、肥料にするという重要な役割を担っています。他にも、生産物の多様化を目指した苗床づくりを実施しました。



レイテ島は、フィリピン中部のビサヤ諸島の島です。レイテ湾に面した一帯が農業に適した平地で、約190万人の島民の多くが農業に従事しています。大型台風ハイヤンが直撃した中心都市タクロバン周辺は、暴風雨と高潮に襲われ、島全体で1万人以上が犠牲になりました。